

第1学年図画工作科「世界に一つ 自分だけの箱 ～たいせつボックス～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 内田 珠世

教師が大切にしている物やそのエピソードについて知った子供たちは、自分たちにも大切にしている物があることを思い出し、「それらを入れる箱を、特別に飾りたい」という思いを高めて、「大切な物を入れる世界に一つの自分だけの箱をつくろう」と題材の目標を設定しました。そして、つくりたい箱のイメージに合うように形や色を工夫して思い思いに箱を飾りました。

もっと「世界に一つの自分だけの箱」にしよう

【見通し】

まず初めに、題材の目標を再確認して箱づくりへの思いを高めました。また、前時の学習を振り返り、イメージが似ている友達とは似たような形や色になっていたことや、まだ試していない形や色がたくさんあったことを想起して、「もっと世界に一つの自分だけの箱にしたい」という思いを高め、本時の学習課題を設定しました。その後、今日試してみたい形や色など、具体的にどのように工夫したかを考えて見通しをもち、ペアの友達に伝えたり、全体で交流したりしました。



【行動】

箱を飾る際には、工夫してつくるための手掛かりをまとめた「くふうめがね」や、材料ごとの技の掲示を参考にしながらつくりました。また、材料を取りに行く際に友達の活動を見て、いいところを見付けて尋ねたり、技の掲示に貼った名前シールを見てその技を試している友達に相談したりと、自由に友達と交流しながら、自分のイメージに合うように、様々な形や色を試しながら、工夫してついたり、つくりかえたりしました。



【振り返り】

作品の写真を撮り、前時までの作品の写真と比べて、イメージに合うように変えたところである「変身ポイント」を見付けることで、自分の学びを捉えました。「変身ポイント」を見付ける際は、ペアの友達と話しながら、形や色を視点に工夫したところを考えました。最後に、「変身ポイント」について全体で紹介し、前時と比べて振り返ることのよさを共有しました。また、次にしたいことを考え、次時への見通しをもちました。



成果と課題

○自由に交流しながらつくれる教室環境の工夫や、教師が子供の工夫を価値付けたり、「なぜ赤色にしたの」などと問うたりすることで、イメージに合わせて形や色を選びながら、工夫してついたり、つくりかえたりすることができた。

▲「変身ポイント」の理解が不十分で、自分の作品のよさを形や色という視点で捉え切れていない子供がいた。形や色を意識している姿の価値付けや友達との交流によって形や色を工夫したことへの自覚を促す必要があったのではないか。